

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】令和 4 年 9 月 7 日(2022.9.7)

【国際公開番号】WO2020/060328
【公表番号】特表 2022-501896(P2022-501896A)
【公表日】令和 4 年 1 月 6 日(2022.1.6)
【出願番号】特願 2021-515143(P2021-515143)
【国際特許分類】

H 0 4 N 1 9 / 7 0 (2 0 1 4 . 0 1)

10

H 0 4 N 1 9 / 1 8 (2 0 1 4 . 0 1)

【 F I 】

H 0 4 N 1 9 / 7 0

H 0 4 N 1 9 / 1 8

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 8 月 26 日(2022.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ビデオ復号化方法であって、

残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグをビットストリームから解析することと、

前記非ゼロフラグが、前記残差係数が非ゼロではないことを示す場合、前記ビットストリームから絶対値情報解析することであって、前記絶対値情報は前記残差係数の絶対値を決定するために使用される、ことと、

30

前記絶対値情報に基づいて、前記残差係数の絶対値を決定することと、を含み、

前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを含み、

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記ビットストリームからパリティフラグをさらに解析し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数であるかを示す、前記ビデオ復号化方法。

【請求項 2】

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合、第 1 調整残余係数比較フラグをさらに解析し、前記第 1 調整残余係数比較フラグは、前記残差係数を 1 ビット右にシフトして導出された調整残余係数が第 2 値を超えるか否かを示す、

40

請求項 1 に記載のビデオ復号化方法。

【請求項 3】

前記調整残余係数が第 2 値以下である場合、前記パリティフラグの値に従って、前記残差係数が $2N$ または $2N + 1$ (N は前記第 2 値である) であると決定する、

請求項 2 に記載のビデオ復号化方法。

【請求項 4】

前記調整残余係数が前記第 2 値を超える場合、第 2 調整残余係数比較フラグをさらに解析し、前記第 2 調整残余係数比較フラグは、前記調整残余係数が第 3 値を超えるか否かを示す、

請求項 2 に記載のビデオ復号化方法。

50

【請求項 5】

前記調整残余係数が前記第 2 値を超える場合、残差値情報をさらに解析し、
前記残差値情報は、前記調整残余係数から前記第 2 値を差し引いた値である、
請求項 2 に記載のビデオ復号化方法。

【請求項 6】

ビデオ符号化方法であって、
残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグを符号化することと、
前記残差係数が非ゼロではない場合、絶対値情報を符号化することであって、前記絶対
値情報は前記残差係数の絶対値を決定するために使用される、ことと、を含み、
前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを
含み、
前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記残差係数のパリティフラグをさら
に符号化し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数であるかを示
す、前記ビデオ符号化方法。 10

【請求項 7】

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合、第 1 調整残余係数比較フラグをさらに符号化
し、前記第 1 調整残余係数比較フラグは、前記残差係数を 1 ビット右にシフトして導出さ
れた調整残余係数が第 2 値を超えるか否かを示す、
請求項 6 に記載のビデオ符号化方法。 20

【請求項 8】

前記調整残余係数が前記第 2 値以下である場合、前記パリティフラグの値に従って、前
記残差係数が $2N$ または $2N + 1$ であると決定する、
請求項 7 に記載のビデオ符号化方法。 20

【請求項 9】

前記調整残余係数が前記第 2 値を超える場合、第 2 調整残余係数比較フラグをさらに符
号化し、前記第 2 調整残余係数比較フラグは、前記調整残余係数が第 3 値を超えるか否か
を示す、
請求項 7 に記載のビデオ符号化方法。

【請求項 10】

前記調整残余係数が前記第 2 値を超える場合、残差値情報をさらに符号化し、
前記残差値情報は、前記調整残余係数から前記第 2 値を差し引いた値である、
請求項 7 に記載のビデオ符号化方法。 30

【請求項 11】

ビデオ復号化デバイスであって、
残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグをビットストリームから解析するた
めの手段と、
前記非ゼロフラグが、前記残差係数が非ゼロではないことを示す場合、前記ビットスト
リームから絶対値情報解析するための手段であって、前記絶対値情報は前記残差係数の絶対
値を決定するために使用される、手段と、
前記絶対値情報に基づいて、前記残差係数の絶対値を決定するための手段と、を含み、
前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを含
み、
前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記ビットストリームからパリティフラ
グをさらに解析し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数である
かを示す、前記ビデオ復号化デバイス。 40

【請求項 12】

ビデオ符号化デバイスであって、
残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグを符号化するための手段と、
前記残差係数が非ゼロではない場合、絶対値情報を符号化するための手段であって、前記
絶対値情報は前記残差係数の絶対値を決定するために使用される、手段と、を含み、 50

前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを含み、

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記残差係数のパリティフラグをさらに符号化し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数であるかを示す、前記ビデオ符号化デバイス。

【請求項 13】

ビデオ復号化デバイスであって、

命令を記憶したメモリと、プロセッサと、を含み、前記プロセッサは前記命令を実行して

残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグをビットストリームから解析することと、

前記非ゼロフラグが、前記残差係数が非ゼロではないことを示す場合、前記ビットストリームから絶対値情報解析することであって、前記絶対値情報は前記残差係数の絶対値を決定するために使用される、ことと、

前記絶対値情報に基づいて、前記残差係数の絶対値を決定することと、を実行するように構成され、

前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを含み、

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記ビットストリームからパリティフラグをさらに解析し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数であるかを示す、前記ビデオ復号化デバイス。

【請求項 14】

ビデオ符号化デバイスであって、

命令を記憶したメモリと、プロセッサと、を含み、前記プロセッサは前記命令を実行して

残差係数が非ゼロであるか否かを示す非ゼロフラグを符号化することと、

前記残差係数が非ゼロではない場合、絶対値情報を符号化することであって、前記絶対値情報は前記残差係数の絶対値を決定するために使用される、ことと、を実行するように構成され、

前記絶対値情報は、前記残差係数が第 1 値を超えるか否かを示す残差係数比較フラグを含み、

前記残差係数が前記第 1 値を超える場合にのみ、前記残差係数のパリティフラグをさらに符号化し、前記パリティフラグは、前記残差係数の値が偶数であるか奇数であるかを示す、前記ビデオ符号化デバイス。

【請求項 15】

コンピュータ可読記憶媒体であって、

コンピュータに請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載のビデオ復号化方法、又は請求項 6 から 10 のいずれか一項に記載のビデオ符号化方法を実行するためのプログラムを記憶した、前記コンピュータ可読記憶媒体。

10

20

30

40

50